

# 北海道から 岩手県へ

氏名 加藤 峰彦

北海道小樽市立銭函小学校 → 岩手県一関市立川崎小学校

(期間：平成31年4月1日～令和2年3月31日)

## 1 派遣先である岩手県の学力向上等の取組

### ○岩手県の授業づくりについて

令和2年度から全面実施となっている学習指導要領では、児童一人一人に、知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力と人間性など、必要な資質・能力を育成することが示されている。このことを踏まえ、岩手県教育委員会では、授業改善の全県での取組や学校の組織的な対応の強化について、以下のとおり、より一層推進していこうとしている。

### ○「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた「いわての授業づくり」3つの視点

視点1 見通し ・単位時間の授業や単元等の学習のまとめりごとに、育成を目指す資質・能力を児童生徒の姿で具体化する（目標と評価基準の明確化）。

視点2 課題解決 ・目的に応じて、ペア等のグループ活動を位置付け、児童が対話的な学びを通して、自分の考えを評価したり・改善したりすることができるようにする。

視点3 ふり返り ・評価問題や児童の自己評価・相互評価により、児童が達成感や学習内容の有用感を得られるようにする。

### ○岩手県の防災教育について

岩手県の教育において特筆すべきものに防災教育がある。県教育委員会では、「いわての復興教育プログラム」における教育的価値「いきる」「かかわる」「そなえる」を踏まえた児童用の副読本を作成し、復興教育の充実に取り組んでいる。派遣校では、毎月11日に様々な防災についての授業や講話などを行っていた。

## 2 派遣校の学力向上等の取組

・岩手県一関市は東北地方の中央に位置し、仙台と盛岡の中間地点にあり、人口は約12万人で県内2位の人口で、中東北の拠点都市である。派遣校である一関市立川崎小学校は、一関市の東部にあり、児童数100人強の中規模の学校である。

・家庭・地域・中学校との協働による教育の推進が行われており、確かな学力の育成を図るため、教職員が共通理解を図りながら、学校全体が同一方向で組織的・系統的・継続的に取り組んでいる。

・派遣校では、「川崎小学校まなびフェスト」と称して、確かな学力を身に付けるために以下の取組を行ってきた。

1. 授業力の向上…授業公開を通して、わかる授業へ改善していく。
2. 基礎・基本の徹底…漢字・算数テストや学力テストの活用
3. 家庭学習の習慣化…家庭学習ガイドの活用、強化月間の設定
4. 言葉を大切にした学習指導…積極的に読み聞かせを行うなど読書に親しむ、毎日10分間の名文の暗唱等「ことばの時間」の充実。
5. 毎月1日は、家庭でのスマホやゲーム、テレビなどに触れないことで集中できる環境を整える。

## 2 北海道に戻って実践したいこと

### ○ICT機器の有効活用による授業改善

- ・各クラスに1台配備されている実物投影機を有効活用して、児童の発表や交流などに活用し授業改善につなげる。

### ○授業の構造化

- ・「課題」と「まとめ」を明確にした授業を実践する。
- ・指導内容を明確にするとともに、それに対応する課題を設定し、焦点化、可視化、共有化を図る。

### ○防災教育

- ・岩手県での取組のように、日ごろから防災に対する知識や具体的な避難方法まで、平時から継続的に災害に備える教育活動を推進する。